

# 麗しき日本の美

## — 細見コレクション名品選 —

前期 若冲と江戸絵画の世界 / 後期 琳派を愉しむ

平成23年1月28日(金)～4月17日(日)

様々な時代やジャンルを象徴する作品で構成されている細見コレクション。本展では多彩なコレクションから人気の高いジャンルを精選し、前期に若冲や北斎をはじめとする江戸絵画を、後期では華麗なる琳派の世界を紹介して参ります。また、茶の湯の道具や調度に施されたかざりもあわせてお楽しみください。

この機会に、日本美術の繊細、優美な感性が息づく麗しき日本の美をご堪能ください。

\* 特集展示 茶の湯とかざり

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)  
 展示替 3月14日(月)～16日(水)  
 開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)  
 入館料 一般1,000円(800円) 学生800円(600円)  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3  
 TEL075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

お問合せ先: 広報担当 三宅 由紀

Tel / 075-752-5555 Fax / 075-752-5955

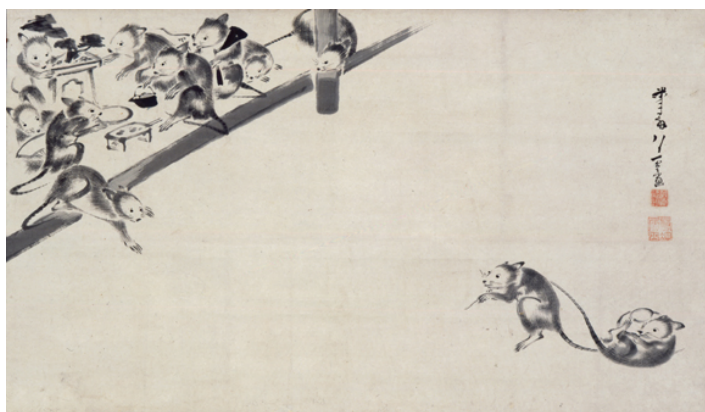
E-mail / [kouhou@emuseum.or.jp](mailto:kouhou@emuseum.or.jp)

### 前期 若冲と江戸絵画の世界

平成23年1月28日(金)～3月13日(日)

江戸時代は御用絵師狩野派による画一的な絵画が一般的でした。しかし18世紀になると、洋書の解禁などがきっかけとなり、文人画や写生画など多彩な作風が広まります。円山応挙や池大雅らによる江戸絵画の優品、また浮世絵の巨匠葛飾北斎の代表作は、近世文化の魅力を雄弁に伝えます。

中でも琳派とともに当館の江戸絵画コレクションの双璧を成す伊藤若冲。彼の独創的な画風は江戸中期の京都で異彩を放ちました。本展では鶏や鼠などの身近な生き物を、鋭い観察眼とともに温かいまなざしで捉えた作品を中心に紹介していきます。



伊藤若冲 鼠婚礼図 寛政八年

### 後期 琳派を愉しむ

平成23年3月17日(木)～4月17日(日)

江戸時代に花開いた日本美術の精華、琳派。本阿弥光悦、俵屋宗達によって試みられた王朝美の再現は、大胆な表現力で江戸初期の人々を圧倒し、新たな時代の美意識を創り上げました。尾形光琳、酒井抱一が継承し、洗練の度を高めた琳派様式は、明確な色彩や優れた構成により、多大な人気を博しました。中でも琳派が得意とした草花図は、江戸初期の宗達の金銀泥絵の花にはじまり、近代に活躍した雪佳まで、三百年以上にわたり描き継がれました。

ここでは細見コレクションの中から、草花図を中心に宗達、光琳、芳中、雪佳らによる典雅な上方琳派(京琳派)と、抱一、其一ら瀟洒な江戸琳派に分けて紹介します。それぞれの表現の違いもお楽しみください。



俵屋宗達下絵・本阿弥光悦書  
 忍草下絵と歌色紙「郭公」 江戸前期